

第六章

露わになった
「国連の正体」
と今後の展望



国連人権理事会の議長で、韓国の崔京林（チェ・ギョンリム）大使（右）。

国連人権理事会に乗り込んで わかったこと

藤木 俊一
ふじき しゅんいち

裏方に徹して

慰安婦の真実国民運動（以下、国民運動）の国連「調査団」「派遣団」を含めてフル参戦しているのは、メンバーの中では私のみである。常に国連でスピーチをするメンバーのサポートに回り、スピーチ原稿の作成や翻訳、現地での国連職員や委員とのやりとり、交渉、通訳、海外メディアのインタビュ対応、情報記録、発音の練習、時にはボディガード役などの裏方仕事に徹してきた。

国連の委員会などで、2分間のスピーチをするよりもある意味神経を使うのが、この準備や

裏方仕事なのだ。チケットの手配や空港、ホテルでの問題など、海外の諸事情を詳しく知っていなければならぬ。幸い私は若い頃から貿易やコンサルティング業務で30年近く世界各国を行き来していたので、そのあたりの事情には明るいために自ずとこの裏方仕事を行ってきた。

日本と常識の違う海外では、日本においては普通のことでも海外ではあり得ないことと言うことが多くある。また、様々な問題に巻き込まれる可能性がある。これらをメンバーに伝えたり、予防したり問題が起きれば解決したりするのも役割のひとつだ。

国民運動が主に扱うのは慰安婦問題。性の問題であるために、男性が扱うよりも女性性が扱う方が良いとの判断で、当初より、なでしこアクションの山本優美子代表や杉田水脈（みお）前衆議院議員が実際のスピーチを行なってきた。



国連人権理事会で発言する藤木俊一氏（左上）。

従来は左翼の言いたい放題が通用していた国連であったが、我々国連派遣団が国連に通い始めて、左翼や日弁連などが国連で繰り広げてきた反日プロパガンダが拡散しにくくなっているのは事実のようだ。

慰安婦問題は、人権関連の5つの委員会と人権理事会で取り上げられ、それぞれに日本政府に対する勧告などが出ている。これが意味するのは、「反論がなければ嘘でも既成事実化してしまう」という恐ろしい理屈であり、それを上手く利用してきたのがいわゆる「人権屋」と言われる弁護士や組織だ。

「反論がない＝事実」であると考えられるため、我々は、その全てに対して反論を行っていかなければならないことになる。この5つの委員会、理事会で最低でも毎回、反論していかなくてはならないわけだ。左翼は慰安婦問題でも、すでに22年前から国連で活動をしている。

これを覆すのは並大抵のことではない。我々国民運動は、2014年から国連に派遣団（当初は調査団）を送り始めたわけなので、左翼側や国連からは容易に「歴史修正主義者」というレッテルを貼られてしまう。まず、歴史を修正したのは我々ではなく、左翼であることを訴えるしかないわけだ。そのために資料を作り委員会に提出して、真実の慰安婦問題を伝えていかなければならない。慰安婦問題では、日本は息絶え絶えの重篤な状態である。まずは、真実という気道を確保し蘇生するしか方法がない。

左翼側は、毎回のように各委員会で慰安婦問題を取り上げ、日本政府の対応を批判し、謝罪しろ、賠償しろ、教科書に記載しろという。これを切り崩さなければならぬのは至難の業である。しかし、何もしなければ全てを認めたことになるのが国際社会の常。

■国連人権理事会に単身乗り込む

そこで、2016年2月11日に行われた国連人権理事会には私が単身で乗り込み、戸塚悦朗氏の仲間である東京造形大学の前田朗教授の発言へのカウンターのために理事会で発言をした。

別々に異なる意見がある場合は「論争中」となり、理事会もすぐには結果が出せない。要するに裁判と同じである。従来は、このような場合は、カウンター側（我々）がいなかったために、欠席裁判同様に左翼側の発言が全て正しいとされて、日本政府に対して改善勧告などが次々と出されてきたわけだ。

前述のように、私はスピーチをする女性たちの裏方仕事をしてきたが、全ての委員会や理事会を彼女たちだけに任せるには負担が重すぎるために、今回は単独で行くことにしたのだ。

このときの私の発言内容の全文を以下に掲載する。

〈タイトル〉

Issue of Military comfort woman

慰安婦問題

Thank you very much Mr.Chairman.
議長、有り難う御座います。

The Japanese delegation addressed the 63rd UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women held on the 16th of February this year.

日本政府代表团は、2月16日に行われた第63会期 国連女子差別撤廃委員会で発言しました。

The Japanese government addressed mainly indicated three points to the committee.
日本政府は主に以下の3点について発言しました。

・ They could not find any evidence that the Japanese authorities forced Korean women into sexual slavery after a full scale investigation.
大規模な調査をしても、日本の官憲による韓国入女性を強制的に性奴隷にした証拠は見つかりなかった。

・ The figure of 200,000 women, which has been widely reported, has no concrete evidence.
広域に拡散された20万人という数字には、全く証拠がない。

・ The term "sex slave" is contrary to the facts, because they were well paid prostitutes according to the US Prisoners of War interrogation report No. 9 issued in 1944 and many others.
性奴隷とは事実とは真逆で、米国の捕虜尋問調査 No.49 やその他多くの資料においても、彼女たちは高給取りの売春婦と記述されている。

On the 28th of December last year, Japan and South Korea came to a conclusion to close this contentious issue between the two nations. Both nations agreed not to bring up the comfort women issue any more.

昨年12月28日に日本と韓国は2国間の懸案であった慰安婦問題を解決することで合意した。両国とも慰安婦問題を今後持ち出さないことに合意した。

However, there is a major instigator in Korea that keeps bringing this issue up.

This organization is called "Jeong Dae Hyeob," meaning "Alliance for the countermeasure of women volunteer workers corps issue" in Korean language, which has nothing to do with the comfort women issue even from its name.

しかしながら、慰安婦問題における主な扇動者が何度もこの問題を持ち出したことである。

この組織は、「挺対協」と言い、韓国語では、韓国挺身隊対策協議会という意味で、これは、慰安婦問題とは名前からして関係ありません。

Furthermore, this organization intentionally misleads the public outside Korea by incorrectly translating its name as "The Korean Council for the Women Drafted for Military Sexual Slavery by Japan" in English.

さらにこの組織は、韓国以外の世界に向けては、その名前を英語で「日本により強制的に徴用

された性奴隷にされた女性の協議会」としています。

The reason is to fabricate the purpose of the organization and to make those women look as pitiful as possible to raise money.

このように（海外に対して）捏造する目的で、その女性たちをお金のためにできるだけ哀れにみせるため。

They have been dragging self-proclaimed former comfort women to several places including Europe, the USA, and Japan to testify what the organization has trained them to say.

彼らは、自称元慰安婦の女性たちを欧州、米国、日本などに連れ回し、組織が教え込んだことをしゃべらせている。

Their testimonies have changed several times and the story line is getting more pathetic each time.

証言は何度も変化し、話の筋がどんどん馬鹿げた話になっています。

Some of them said, "I was dragged into a jeep by Japanese soldiers, we were especially busy during Christmas time, and I could not communicate with the driver because I could not speak English, etc."

「私は兵隊にジープに引きずり込まれ、クリスマス時期には忙しく、運転手とは英語が話せなかったために会話ができなかった」と言っている元慰安婦もいます。

Even in these short statements, there are three errors.

この短い話のなかで、3つのエラーがあります。

• Japan did not have jeeps at that time,
日本にはジープはありませんでした。

2. Japan was/is not a Christian nation so there is no holiday for soldiers during Christmas time,
and

日本は過去も現在もキリスト教国家ではないので、クリスマス期間中に兵士たちは休みではありませんでした。

3. Japanese soldiers did not speak English.

兵士たちは、英語はしゃべりませんでした。

Recently two former comfort women testified in Japan. One of them said, "Japan made Korea a sea of flames." Although they were considered Japanese citizens at that time and there was no need for Japan to raze their own soil, they testified to what they have not experienced because of the organization.

最近、日本に2名の元慰安婦が来しました。その内の1人が、「日本が韓国を火の海にした」と言いましたが、彼女らは当時日本人であり、日本は自国の領土を破壊する必要などありませんでした。彼女らは、経験していないことを組織のために証言しているのです。

In 1996, UN Special Rapporteur Ms. Radhika Coomaraswamy made a report on this issue, which was based on these fabricated stories and testimonies.

Ms. Coomaraswamy was deceived by those who wanted to turn this issue into money for themselves and to criticize Japan.

1996年に国連の特別報告者が、この問題についてこれらの捏造された話と証言を元に報告書を作りました。

クマラスワミさんは、この問題をお金と日本叩きに利用しようとしていた人たちに騙されたのです。

Since the grounds for the argument in the Coomaraswamy report has been disproved, we request the UN Human Rights Council to conduct a further investigation with the Japanese government and to repeal the Coomaraswamy report or submit a new report based on the facts, not fabrication.

クワラスワミ報告書に書かれているこの論争の論拠がなくなったので、国連人権理事会は日本政府とさらなる調査をし、クマラスワミ報告書を破棄するか、新たな報告書を作成して下さい。

Thank you Mr. Chairman.

議長、有り難う御座いました。

ここで、注意しなければならないのは、決して無能な国連を悪者にしないということである。クマラスワミ報告書を書いたラディカ・クマラスワミ特別報告者を責めるのではなく、調査段階で関与した自称元慰安婦や日弁連、その他による不正確な報告や証言がなされたことをこちら側の証拠とともに追及し、反日左翼と国連のマッチポンプの關係に楔（くさび）を打ち込む必要がある。

■ 露わになった独裁国家と自由主義国家の落差

この人権理事会で非常に面白いことが起きたので、紹介したい。

私の発言のいくつか前に United Nations Watch（国連監視団）というNGOが発言を行った。

このNGOの説明によれば、人権理事会の前に20団体程度の各国のNGOを集めて現在の各国政府による人権弾圧の状況の聞き取り調査をしたそう。

人権理事会でのNGOの発言時間は2分である。

はじめの1分半くらいまでは、このNGOが行った聞き取りを被害者の実名を挙げて報告した。その後にいきなり「この人権侵害が行われている国々は、人権理事会の理事たち、あなたたちの国における人権侵害の状況だ」と明かし、理事の人事がおかしいことを暗に示した形と

なった。

そこで、自国の人権侵害を明かされたキューバの代表で理事が、机を叩きはじめ“Point of Order”と発言を遮った。

この“Point of Order”とは、会議の規則に従っていないと思われる場合に理事が発言を遮ることである。そして、このキューバ代表の理事は、「NGOには国連人権委員会の人事に関して意見を述べる資格はない」と語気を荒げた。

韓国人の議長は、これを受けて、各国から参加している人権理事会の理事達の意見を、一人ひとり聞いていった。

中国代表、ベネズエラ代表、ロシア代表などが、このキューバの“Point of Order”を支持する意見を述べたが、米国、カナダなどの自由主義国は、「このNGOは正規の手続きを経てここで発言しているので、意見に同意できない部分もあるかも知れないが、発言は継続させるべきだ」とした。

これに対して、キューバ代表の理事は、韓国人議長に対して、「このNGOは、この会場にいる人たちや、議長、あなたを馬鹿にしているんだ。発言をさせるな」と何度も嘯みついた。

しかし、この韓国人の議長は、キューバ代表に対して「それは、あなたの個人的な意見だ」

と一蹴。NGOは、発言を続けることができた。残り5秒くらいのところで、このNGOは、

“You can sensor your home but you can't sensor United Nations.”（君は自分の家（国）の中を検閲することはできても、国連を検閲することは出来ない）と吐き捨てた。この発言で、会場は拍手の渦に包まれた。そして、このキューバ代表の理事は、会議途中でその場を去って行った。

このNGOの勇気ある発言には、各国のNGOも「そうだ!」と声を上げた。これは、国連が如何に無能であるかを示しているのと同時に、多くのNGOが国連に対して強いフラストレーションを感じていると言うことだ。さらに、ここで明確に言論弾圧国家がどこであるかが示された格好になった。国連改革論が取りざたされて久しいが、未だに各国の利権のために動いていることは否めない。

さらにここで考えられるのは、このNGOに対し、言論弾圧が常である中国やその他の国からの圧力だ。場合によっては、NGOの協議特別資格を剥奪される可能性もある。それだけ、NGO側も必死だというわけだ。

■日本はマゾヒスト国家か？

すでに何度も国連へ通っている私は、国連内のメディア数社とも顔見知りになって、会った

びに話をする関係ができています。その中の1人が、「日本は大規模な代表団をここ国連に送ってきて、真摯に対応しているが、そんな国は他にはない。この強制力も無い委員会になぜそこまで日本政府が肩入れしているのかを理解できない。中国のように無視しても何の問題も無いのに、あまりにも真面目過ぎて、それを利用して見ように見える」と言われた。

まったくこれは的を射た感想だと思う。日本では、小学校の教科書にも国連は世界平和のための機関だと書いてあり、国連崇拜が続いているが、実態は、利権がぶつかるプロパガンダ会場だ。そして、日本が未だに敵国とされている戦勝国連合だ。

米国が分担金(22%)の支払いをしていない現在、日本(10・833% 約310億円)が国連に対しての最大の拠出国だ。それなのに日本のことなど理解していないと思われる、名前すら知られていないような発展途上国の委員や、現在でも自国内で人権弾圧をしている国から送られてきた理事や委員が日本政府に対して勧告を出すなど、外から見れば滑稽だと感じるのは当然だ。まるで虐められることに快感を覚えているマゾヒストに見えることであろう。

今回の人権理事会には、慰安婦を性奴隷と国連で言い換えた戸塚悦朗弁護士の子分とも言われている、東京造形大学教授の前田朗氏が、私とは全く逆の、従来の「慰安婦」日本に強制された性奴隷」という立場で、日本政府に対してさらなる謝罪、賠償、教科書への記載などを促

す発言をしていた。

ここに反対側の誰かが行って、意見を述べなければ欠席裁判同様に「日本＝極悪国」のレッテルが貼られ、取り返しの付かないことになることは明らかだ。今後にも必要に応じて、その役割を果たしていきたい。